

## ●利用者11● 70代 女性【疼痛管理、その日の体調に応じて、泊まり・帰宅の選択等柔軟な対応】

✓寝たきりの状態で退院。緩和ケアにより、疼痛コントロールと穏やかな時間を過ごすために利用

✓疼痛の状況など体調に合わせて、急遽、泊まりとしたり、調子が良ければ自宅へ帰るなど、日々、柔軟に対応

### 1. 利用者の基本情報

世帯構成	長女、長男と同居				
介護力	主たる介護者は長女。時間帯によって介護できる人がいる。				
要介護度	要介護5				
障害高齢者の日常生活自立度	B2		認知症高齢者の日常生活自立度	I	
ADL	移動	食事	排泄	入浴	着替え
	全介助	全介助	全介助	全介助	全介助
主な傷病	・悪性胸膜中皮腫				
必要な医療処置	・看取り期のケア ・疼痛の看護		・酸素療法（酸素吸入） ・摘便	・服薬管理（含麻薬）	
ターミナル期	ターミナル期		病状の安定性・悪化の可能性	不安定・悪化の可能性あり	

### 2. 利用開始の経緯

<寝たきりの状態で退院。疼痛コントロールと穏やかな時間を過ごすことが利用目的>

- ・胸膜中皮腫で、2回目の化学療法で蕁麻疹が現れ、3回目の入院で寝たきりとなり退院となった。退院後は緩和ケア目的で、疼痛コントロールを行うこととなっていた。
- ・本人、家族にとって、急激な体調の変化であり、介護保険も初めての利用だった。家族はフルタイムの仕事をしており、在宅での介護力に不安があることから、病院の地域連携室より、当事業所に相談があった。
- ・当事業所利用の主な目的は、疼痛コントロールと穏やかな時間を過ごすことであった。

### 3. 利用開始直後のサービス提供状況

<家族の帰宅時間に合わせて通いの時間を調整>

- ・主たる介護者の娘は朝7時に出勤し、夜の7時頃に帰宅する生活を送っており、日中独居の状態だった。しかし、自宅に帰りたい、泊まりはあまり利用したくないという意向だったため、日中、家族が不在の時間帯は通いを利用し、家族の帰宅時間に合わせて夕食提供後に自宅へ送るなど、ライフスタイルにあった利用方法を検討した。

### <娘との時間を共有できるように支援>

- 娘が帰宅時に事業所へ寄れる際には、本人と個室で夕食を一緒に食べられるようにした。本人は気丈な人だが、「今日は娘はくるかな」「娘は連絡してくれたかな」と言うため、少しでも娘との共有の時間を作れるように配慮した。夕食は事業所で用意しているが、娘が買ってきたものを一緒に食べることもあった。

### <往診には自宅、事業所のいずれも看護師が立ち会い、医師に状況を伝える>

- 往診の際には、必ず看護師が立ち会った。自宅で往診の場合も、看護師が訪問し、往診の前に清拭するなど整え、立ち会った。医師に状況を伝え、薬の量を変えるなどのコントロールなども行った。

### ※利用開始から最初の2週間のサービス提供状況

	1 目 目	2 目 目	3 目 目	4 目 目	5 目 目	6 目 目	7 目 目	8 目 目	9 目 目	10 目 目	11 目 目	12 目 目	13 目 目	14 目 目
通い			○	○	○		○	○	○	○	○	○		○
泊まり			●	●				●	●	●				●
訪問(介護)	□ 1回	□ 3回	□ 1回		□ 1回		□ 2回				□ 1回	□ 2回		□ 1回
訪問看護 (同事業所: 医療保険)	★	★ 1回	★ 1回	★ 1回	★ 1回		★ 1回	★ 1回	★ 1回	★ 1回	★ 1回	★ 1回		★ 1回

## 4. その後のサービス提供状況

### <疼痛管理を行う中、体調に合わせて泊まり、帰宅を柔軟に調整>

- 余命1～2ヵ月と告げられ、当事業所の関わりは5週間だったが、来所しない日は電話し、容態や服薬状況、食事状況などを確認した。
- 疼痛管理をしていたが、倦怠感が強く、食事量は2～3割程度だった。2か月で体重が5キロ減少した。連泊予定でも、本人の体調が良ければ、家族と相談して帰宅するなど、柔軟な対応を行った。
- 疼痛のため、一度も入浴できなかったが、陰部洗浄、手浴・足浴、清拭、ベッド上での洗髪、美容師の娘と協力してベッド上でヘアカットするなど、本人、家族と相談しながら、その都度、体調にあったケアを実践した。

### <亡くなる2日前も自宅へ帰り、娘の作ったうどんを食べる。事業所で家族に囲まれて看取り>

- 最後の往診は自宅で受け、娘が作ったうどんを食べたいということで、うどんを口にした。翌日、迎えにいったが容態が悪く、その2日後に亡くなった。最期の2日間は事業所の居室に2人の息子、娘、親しい近所の人に見守られていた。

※直近2週間のサービス提供状況

	1 日 目	2 日 目	3 日 目	4 日 目	5 日 目	6 日 目	7 日 目	8 日 目	9 日 目	10 日 目	11 日 目	12 日 目	13 日 目	14 日 目
通い	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○
泊まり			●	●	●			●	●	●	●		●	●
訪問 (介護)	□ 2回	□ 2回	□ 1回		□ 1回	□		□			□ 1回	□		
訪問看護 (同事業所: 医療保険)	★	★	★	★	★	★ 1回	★ 1回	★	★	★	★ 1回	★	★	★

○サービス利用の効果

- ・通いから自宅に帰るつもりでも、疼痛が強かったため、体調が悪い時は、急遽、泊まりを利用したり、逆に、泊まりの予定でも、体調が良く自宅に戻れそうな場合は、娘に相談して、自宅に戻ることもあった。その日の体調をみながら柔軟な対応ができるのは、看護小規模多機能型居宅介護ならではの良さであると思う。